

## 4 文化財

### 基本目標 福山の歴史を身近に感じられる文化財の保存と継承

#### 基本施策1 文化財の調査と資料収集

状況	<p>開発に伴う埋蔵文化財調査・事前協議の件数は増加傾向にあり、状況に応じて試掘・確認調査、立会等を実施し、埋蔵文化財保護と開発の調整を図っている。</p> <p>文化財の指定については、建造物等で指定に向けた調査を実施した。</p> <p>阿部家資料については、継続的な整理と資料集の作成を行うほか、資料の適切な保管と調査研究成果の活用を図っている。</p>
主な取組	<p>(1) 文化財の調査・研究</p> <p>(2) 文化財資料の調査と収集</p>

#### [評価]

おおむね 順調	文化財の指定・登録件数は増加しており、あらたな指定に向けた調査研究に取り組んでいる。
------------	--

#### [基本施策に関する指標（数値目標）]

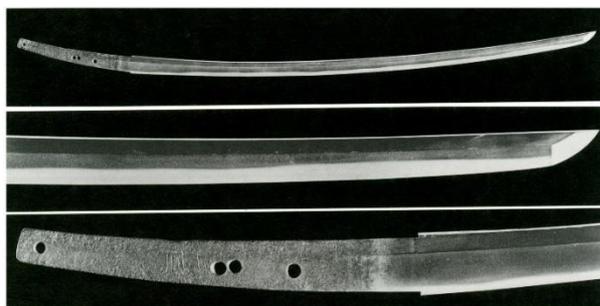
項目	2016(H28) 年度	2017(H29) 年度	2018(H30) 年度	目標値 2021(R3) 年度
1 文化財の指定・登録件数	333 件	336 件	348 件	338 件

(項目説明)

指定・登録文化財の総件数。



日本遺産  
「鞆町の港町文化をテーマとしたストーリー」



小松安弘興産寄贈 国宝太刀銘正恒

主な取組	文化財の調査・研究				
取組内容	① 埋蔵文化財の調査 ② 文化財の指定・登録				
概要等	課題			今後の方針	
<b>① 埋蔵文化財の調査</b>					
○開発に伴う埋蔵文化財調査及び事前協議を行った。 ・埋蔵文化財調査 …試掘・確認 35件 立会 44件 文書協議 1,056件 ・事前協議 …窓口 1,015件 ファクシミリ 446件 ○指定・登録の可能性のある(上位指定を含む)文化財の調査として、福山城伏見櫓・筋鉄御門、神辺本陣の建造物調査を行った。	○指定・登録の可能性のある文化財の把握のためには、未指定文化財の調査及び状況把握が必要である。			○積極的に文化財に関する情報を収集し、調査研究を進める中で、重要なものについては、指定・登録に向けて取り組む。	
<b>② 文化財の指定・登録</b>					
○鞆の浦の近世港町のストーリーが全国 65 番目の日本遺産に認定された(文化財保護法上の指定等には含まれない)。	○文化財の保護を目的とした調査と指定・登録は、所有者の申請・同意が必要であるが、指定・登録後も適切に管理し、保存・活用できる体制を整備する必要がある。			○文化財の所有者に対する適切な管理・保存のための啓発に取り組む。	
実績数値					
<b>【文化財の指定・登録・選定の状況】</b>					
区分	2014	2015	2016	2017	2018
指定文化財	293件	293件	294件	296件	308件
登録文化財	39件	39件	39件	39件	39件
選定				1件	1件
計	332件	332件	333件	336件	348件
選定は、重要伝統的建造物群の選定。					

主な取組	文化財資料の調査と収集				
概要等	課題			今後の方針	
<b>【阿部家資料の調査・整理】</b>					
○寄贈を受けた東京阿部家資料の整理・解説を行い、企画展を開催するとともに、資料集文書編（9）を作成・刊行した。	○資料の整理、解説には専門的知識が必要である。			○資料の調査・活用能力を持った人材育成に取り組む。	
<b>【歴史文化基本構想に伴う調査】</b>					
○歴史文化基本構想策定に際して調査を実施した地神・辻堂について、追加調査を実施した。	○収集した資料の整理が中途であり、地域によっては継続調査が必要である。			○調査を継続するとともに、収集した資料を整理・活用する。	
<b>【その他調査・収集】</b>					
○歴史資料・考古資料等の寄附申出に対し、調査・収集を行った。	○新たに寄附の申し出があった資料、特に民俗資料については収蔵スペースが少なく、受け入れが可能な種類が限定される場合がある。			○資料を収集して整理・分類・保存・管理するために広い収蔵スペースが必要となるため、市遊休財産の活用を検討する。	
実績数値					
<b>【阿部家資料の調査・整理の状況】</b>					
区分	2014	2015	2016	2017	2018
作成及び刊行した目録・資料集等の冊数	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊

## 基本施策2 文化財の保存と活用

<p>状況</p>	<p>本市文化財行政のマスタープランとして策定した福山市歴史文化基本構想に基づいて施策を進めていく。</p> <p>国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された鞆町伝統的建造物群保存地区については、引き続き国、県、所有者等と調整を図り、町家や土蔵等の修理事業、修景事業等を実施した。</p> <p>史跡関連においては、国史跡「二子塚古墳」の整備工事と活用事業の実施、特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」では祠堂の実施設計、建物の部分修理と寮舎の災害復旧工事の補助、国史跡「福山城跡」の保存整備基本計画の策定、国史跡「朝鮮通信使遺跡鞆福禅寺境内」では管理施設の基本設計及び展示計画策定をそれぞれ行った。</p> <p>文化財に対する市民の保護意識の醸成を図るため、文化財めぐり、文化財講座、出前講座の実施や国重要文化財伏見櫓・筋鉄御門の公開、歴史資料室の東京阿部家資料展示などを行った。</p> <p>市民が郷土の歴史や伝統文化等の価値を正しく理解し、誇りに感じるとともに、貴重な文化財を後世に引き継いでいくために、保存と活用に取り組んでいる。</p>
<p>主な取組</p>	<p>(1) 文化財の保存・管理・活用 (2) 文化財保護意識の醸成</p>

### [評価]

<p>おおむね 順調</p>	<p>指標は前年度を下回っているが、文化財講座、講演会や遺跡現地見学会など例年を上回る回数を実施しており、文化財の整備・活用においても、事業が進展していることから、市民の関心が今後高まるものと期待される。</p>
--------------------	--

### [基本施策に関する指標（数値目標）]

項目	2016(H28) 年度	2017(H29) 年度	2018(H30) 年度	目標値 2021(R3) 年度
1	郷土歴史施設の利用者数 16.0 万人	15.4 万人	14.0 万人	16.4 万人

(項目説明)

郷土歴史施設の年間利用者数。

【郷土歴史施設】 ・福山城博物館 ・鞆の浦歴史民俗資料館 ・しんいち歴史民俗博物館  
・あしな文化財センター ・神辺歴史民俗資料館 ・菅茶山記念館



史跡二子塚古墳保存整備工事



福山城筋鉄御門内部の公開

主な取組	文化財の保存・管理・活用	
取組内容	① 文化財の保存・管理 ② 文化財の整備・活用	
概要等	課題	今後の方針
<b>① 文化財の保存・管理</b>		
<b>福山市歴史文化基本構想</b>		
○福山市歴史文化基本構想に基づき、資料調査を実施した。	○策定にあたり調査・収集した資料の整理・活用が求められるほか、構想を具体化するための実施計画を立てる必要がある。	○福山市歴史文化基本構想を具体化するための実施計画を策定し、取組を推進する。
<b>その他指定・登録文化財</b>		
○所有者及び管理者による定期的な草刈清掃等により、指定・登録文化財の適切な保存・管理を行った。また、福山市文化財保護指導員の定期的なパトロールによる情報提供を受け、説明板の修理1件、標柱の設置5件を実施した。	○市内に多数の指定文化財があるため、文化財パトロールの対象となっている史跡・名勝・天然記念物以外の指定文化財の保管状況の把握が必要である。 ○史跡の管理については、管理者が高齢となり、草刈等の作業が困難になる場合が生じている。	○引き続き、文化財の所有者・管理者等と連携を図りながら、文化財保存事業及び防災設備保守点検事業等を実施し、文化財の維持管理に努める。
<b>② 文化財の整備・活用</b>		
<b>鞆地区の町並み</b>		
○鞆町伝統的建造物群保存地区内にある建物の修理8件、修景1件に対し、事業費の補助を行った。 ○町並み保存の推進のため、住民による保存会が発足した。また、保存会は修理や修景についての相談窓口となっている。	○保存地区に老朽化の著しい伝統的建造物が多くあり、所有者の理解と協力を得て、保存整備事業を推進していく必要がある。	○町並み保存会と連携を密にしながらか修理相談を受けるとともに、町並み保存の意義について啓発活動に取り組む。
<b>日本遺産の活用</b>		
○日本遺産の活用のため、行政・地元住民・民間事業者等による組織を設立し、国庫補助を活用しながらPR動画の制作、ガイド養成、シンポジウム開催、ロゴマーク制作、食イベントなどの10事業を実施した。	○日本遺産を活用した観光振興や情報発信を図るには、市の関係部局と地元住民の理解と協力が必要である。 ○鞆では年間を通して電線地中化や防潮堤設置工事等が行われており、観光客の受入体制がまだ整っていない。	○日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を分かりやすく伝えるような普及啓発活動に優先的に取り組む。

概要等	課題	今後の方針
<b>国史跡「二子塚古墳」</b>		
<p>○保存整備事業として、墳丘復旧（盛土）工事等を実施し、保存整備検討委員による現地指導及び会議を実施した。</p>	<p>○整備の進め方については、文化庁や県教育委員会と引き続き協議が必要であり、整備後の管理体制構築については、地元の協力を得るとともに、予算措置が必要である。</p>	<p>○関係機関と協議しながら国史跡二子塚古墳保存整備計画に基づいて整備工事を年次的に実施する。管理体制構築について、地元と検討を進める。</p>
<b>特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」</b>		
<p>○保存整備検討委員会議を開催し、実施設計、部分修理、災害復旧への補助を行った。</p>	<p>○所有者と地域の理解と協力を得ながら、保存整備・活用に向けた取組を進める必要がある。</p>	<p>○保存活用計画に基づいて、必要なデータを得るための発掘調査を行う。 ○関係機関と連携して、基本計画・基本設計に基づいて行う実施設計に対し、補助を行う。</p>
<b>国史跡「福山城跡」</b>		
<p>○保存整備検討委員会議を開催し、保存整備基本計画の策定に着手するとともに、二之丸の発掘調査を実施した。また、市の関係部局と調整を行うとともに、関係資料の調査を実施した。</p>	<p>○実施設計に向け、その内容や整備の方法について、文化庁、県教育委員会及び市の関係部局との協議・調整が必要である。</p>	<p>○史跡を適切に保存活用するため、文化庁、県教育委員会及び市の関係部局との協議・調整を図りながら、実施設計を行うとともに、整備の方法について検討する。</p>
<b>国史跡「朝鮮通信使遺跡鞆福禅寺境内」</b>		
<p>○保存整備検討委員会議を開催し、保存活用計画、整備基本計画に基づいた整備基本設計及び展示計画を検討した。</p>	<p>○所有者の理解と協力を得ながら、保存活用に向けた取組を進める必要がある。</p>	<p>○史跡指定地全体としての価値の保存・継承のため、関係機関と連携して、保存活用計画、基本計画・基本設計に基づき、管理施設の実施設計を行う。</p>

実績数値

【文化財の整備・活用の状況】

区分	2015	2016	2017	2018
鞆地区の町並み			・保存対策調査報告書の発行 ・保存計画の策定	
	【補助事業】 ・修理 10件 ・修景 1件	【補助事業】 ・修理 14件	【補助事業】 ・修理 13件 ・修景 3件	【補助事業】 ・修理 8件 ・修景 1件
国史跡二子塚古墳	・墳丘の発掘調査 ・保存整備計画実施設計	・後円部石室の補強及び石棺の修復	・民家隣接地法面对策工事等	・保存整備工事 墳丘復旧(盛土) 園路・周溝部分盛土
特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」	・史跡範囲の測量調査 ・保存活用計画前編の策定	・保存活用計画の策定及び刊行	・整備基本計画の策定 ・基本設計	・実施設計(祠堂) ・災害復旧補助
国史跡「福山城跡」	・関係資料の調査	・関係資料の調査	・保存活用計画の策定 ・関係資料の調査	・整備基本計画検討 ・二之丸確認調査
国史跡「朝鮮通信使遺跡 鞆福禅寺境内」		・保存活用計画の策定及び刊行	・整備基本計画の策定 ・管理施設の基本設計	・基本設計の検討 ・展示計画の検討

主な取組	文化財保護意識の醸成				
概要等	課題			今後の方針	
<b>展示・見学会等</b>					
<p>○博物館、資料館等における文化財の展示、重要文化財「福山城伏見櫓・筋鉄御門」の内部公開を実施した。</p> <p>○国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」として二子塚古墳出土資料の複製品及び模型を作成し、市内3箇所で開催を、講演会1回をそれぞれ実施した。</p> <p>○発掘調査関連の講演・報告会、鞆の文化財や自然環境に特化した3回シリーズの講座、福山駅北側市道の歩行者天国化社会実験に伴う福山城掘めぐり見学会を実施した。</p>	<p>○広報ふくやま（歴史散歩、文化財指定特集）等により周知を図っているが、さらに広く周知する方法を検討する必要がある。</p>		<p>○貴重な国民的財産である文化財を、公共のために適切に保存するとともに、現地見学会等の情報発信を活用し、公開・活用に努める。</p>		
<b>文化財保護意識の醸成</b>					
<p>○文化財講座（鞆町並み関連）、ユネスコ「世界の記憶」巡回パネル展、文化財めぐりを実施し、地域の文化財関連団体主催の見学会を支援するなど啓発と文化財保護意識の醸成に努めた。</p> <p>○出前講座により、市内各所で歴史文化・文化財の啓発に努めた。</p>	<p>○高齢者の文化財に対する関心は高いが、中・若年層の関心が低い。</p>		<p>○文化財めぐりや講座の回数を増やし、方法・内容について検討を行い、多くの市民が気軽に文化財に触れる機会をつくるほか、地域の郷土史研究会・町内会・公民館等と協働した啓発活動を行う。また、小中学校による文化財の見学・活用を働きかけ、若年層に関心を持ってもらう。</p> <p>○関係者の所有権その他の財産権を尊重しながら、広報、報道、インターネット等の様々な媒体を利用して周知を図ることにより、文化財の啓発に努める。</p>		
実績数値					
<b>【文化財講座等の開催状況】</b>					
区分	2014	2015	2016	2017	2018
開催回数	26回	27回	26回	36回	35回